

特集「幕別町の橋・坂物語」より

栗山橋(札内橋)

町民文芸

まぐべつ

第19号・2003

札内橋は元々「栗山橋」という。

明治31年に札内川のたもとに住んでいた栗山常次郎が私設の橋を架設するが、9月の大洪水で流されてしまった。

翌32年に再建。人は片道一銭、馬は片道二銭の有料橋であった。

明治40年国に寄付され官設栗山橋となり、渡橋料はとらなくなった。

大正11年、橋が架けかえられて「札内橋」と改称。

その後修理・架け替えが行われたが詳しくは不明で、昭和32年現在地に移され永久橋となった。

橋付近では通過車両の増加などで慢性的な渋滞が続いたために昭和60年に現在のような4車線通行となる。

この工事にはおよそ5年の年月がかかった。

なお、栗山橋の橋脚の残骸は今もかすかに残っている。